

# 東京国立 博物館 ニュース

展示と催し物案内  
第768号

2022

3・4・5



表紙の名品

「見返り美人図」

裏表紙に掲載してほ!



「東京国立博物館創立150年  
4月1日より記念の年がはじまります!」  
「博物館でお花見を」……233

2022年度特別展 Information

「特別展 ポンペイ」特別展 空也上人と六波羅蜜寺」

「沖縄復帰50年記念特別展 琉球」

「東京国立博物館創立150年記念 特別展 国宝 東京国立博物館のすべて」……455

「特集 おひなさまと日本の人形」

「特集 東京国立博物館コレクションの保存と修理」

「特集 東京国立博物館の近世仏画——伝統と変奏——」

「特集 親と子のギャラリー 翼と羽」……657

総合文化展 Pick Up! (本館/東洋館/平成館/法隆寺宝物館/黒田記念館)……859

トーハクの調査研究⑩……9 / 本館展示案内(2階:日本美術の流れ、1階:ジャンル別展示)……10513

みどりのライオン(教育普及事業)……13 / イベント&インフォメーション……14515



# 東京国立博物館創立150年

## 4月1日より記念の年がはじまります！

当館は、2022年3月、創立150周年を迎えます。1872年に開催された日本初の博覧会が、当館のはじまりです。いつの時代も、私たちの使命は、文化財を大切に守り、次の世代へ伝えることです。150年の歴史を振り返りながら、文化財の魅力

2022年度は館内のいたるところで特集展示を開催します。年間を通してさまざまな企画をお楽しみください。  
\* 会期・会場・名称について今後変更の可能性もあります。  
\* 150マークは創立150年記念特集です。

2022年東京国立博物館は、そんな思いから生まれた数々の企画をお届けしていきます。

創立150年  
記念企画

## 1 総合文化展特集一覧

東南アジアのやきもの—収集と研究の軌跡—	150
3月23日(水)～5月15日(日) 本館14室(→12ページ)	
東京国立博物館の近世仏画—伝統と変奏—	150
4月5日(火)～5月29日(日) 本館特別1室・特別2室(→7, 9ページ)	
未来の国宝—東京国立博物館 書画の逸品—	150
4月12日(火)～2023年3月26日(日) 本館2室	
親子のギャラリー 翼と羽	
4月26日(火)～5月29日(日) 平成館企画展示室(→7ページ)	
収蔵品でたどる日本仏像史	150
5月17日(火)～7月10日(日) 本館14室	
時代を語る洋画たち—東京国立博物館の隠れた洋画コレクション	150
6月7日(火)～7月18日(月・祝) 平成館企画展示室	
東博のガラスコレクション	150
7月12日(火)～9月4日(日) 本館14室	
親子のギャラリー 日本美術のつくり方 V	
7月20日(水)～8月28日(日) 本館特別2室	
チベット仏教の美術—皇帝も愛した神秘の美—	150
7月26日(火)～9月19日(月・祝) 平成館企画展示室	
令和3年度新収品	
8月2日(火)～8月28日(日) 本館特別1室	
未来の国宝—東京国立博物館 彫刻、工芸、考古の逸品—	150
9月6日(火)～12月25日(日) 本館14室	
東京国立博物館の模写・模造—草創期の展示と研究—	150
9月6日(火)～10月30日(日) 本館特別1・2室	
中国書画精華—宋代書画とその広がり—(仮)	150
9月21日(水)～11月13日(日) 東洋館8室	
再発見! 大谷探検隊とたどる古代裂の旅	150
9月21日(水)～12月4日(日) 東洋館5室	
つたえる、つなぐ—博物館広報のあゆみ—	150
9月27日(火)～11月6日(日) 平成館企画展示室	
東京国立博物館のイスラム陶器	150
10月4日(火)～2023年1月22日(日) 東洋館5室	
古代染織の保存と修理—50年にわたる取り組み—	150
10月18日(火)～12月11日(日) 法隆寺宝物館第6室	
根付 郷コレクション	150
11月2日(水)～2023年1月22日(日) 本館12室	
高円宮殿下二十年式年祭記念 根付 高円宮コレクション	150
11月15日(火)～12月25日(日) 平成館企画展示室	
戦後初のコレクション 国宝「松林図屏風」	150
2023年1月2日(月・休)～1月15日(日) 本館7室	
博物館に初もうで	
2023年1月2日(月・休)～1月29日(日) 平成館企画展示室	
近世能狂言面名品選—「天下第一」号を授かった面打—	150
2023年1月2日(月・休)～2月26日(日) 本館14室	
蘭亭—王羲之の憧憬(仮)	150
2023年1月31日(火)～4月23日(日) 東洋館8室	
コレクションの探求 はにわ展から50年	150
2023年2月28日(火)～4月9日(日) 平成館企画展示室	

### 創立150年記念特集から「未来の国宝展—東京国立博物館 書画の逸品—」をご紹介します!

## 特集 未来の国宝

東京国立博物館 書画の逸品

本館2室・国宝室は、絵画・書跡の名品をゆつたりとした空間で鑑賞していただく展示室で、通常は当館所蔵あるいは寄託の国宝指定の作品を展示しています。この展示室には150年後、もしくはその先の未来、どのような作品が展示されているのでしょうか。東京国立博物館150年の歴史のなかで

収集された作品のなかには、国宝や重要文化財となっていないくとも、素晴らしい作品が数多く収蔵されています。創立150年を記念し、当館の研究者が選抜したいち押し作品を「未来の国宝」と銘打って、年間を通してご紹介いたします。

## 博物館でお花見を

### 創立150年を迎え、 変わらぬ咲く花を楽しむ

今年もお花見の季節がやってきます。本館では、恒例の「博物館でお花見を」を開催、桜にちなんださまざまな文化財を展示します。期間中は、「トーハクナビ」上でスタンブラリーをお楽しみいただけます。展示室内で桜マークのついた作品を探してみてください。また、本館北側にある庭園では、時季を違えて咲くさまざまな種類の桜を見ることが出来ます。昨年整備工事を終えて散策しやすくなった庭園を回遊して、建物の内外で博物館の春を満喫していただけます。

※庭園は、昨年より通年で全面開放しています。  
※作品ごとに展示期間が違います。当館ウェブサイト等でご確認ください。

### 江戸幕府の奥絵師・具慶が描く 『伊勢物語』の一場面



観桜図屏風 (部分)  
かんおうずびょうぶ  
観桜図屏風  
住吉具慶筆 江戸時代・17世紀  
西脇健治氏寄贈  
本館7室 3月23日(水)～5月8日(日)  
江戸時代のやまと絵の典型で、公卿が穏やかな風景の中で桜をながめています

### 5枚揃いの華やかな小皿

## 展覧会ポスターで たどる東博の歴史

本館と平成館をつなぐ通路では、さまざまなポスターを掲示しています。創立150年を記念して今まで当館で開催した特別展や企画のポスターから選んだ10数点をテーマを変えて展示します。半世紀ほど前のレトロなものから、ご記憶に新しい近年の展覧会まで、多様なデザインのポスターを通して当館の展示の歴史を感じていただけるコーナーです。

### 1期：日本と東洋の美術

4月5日(火)～7月31日(日)

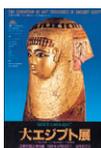
興福寺創建1300年記念  
「国宝 阿修羅展」(2009年)



### 2期：世界とつながる 東京国立博物館

8月2日(火)～12月4日(日)

大エジプト展(1988年)



### 3期：博物館に初もうで、 博物館でお花見を

12月6日(火)～

2023年3月26日(日)

博物館に初もうで(2016年)



## コラボレーショングッズ 第1弾

創立150年を契機に、さまざまな企業とコラボレーションを行い、文化財を活用した魅力ある商品開発を展開します。今回ご紹介するのは、株式会社ほぼ日(代表：糸井重里氏)が制作する「ほぼ日手帳」。所蔵品をモチーフにした週間手帳や手帳カバーなど、展示の予定や感想を書き留めたいくなるようなアイテムです。



富嶽三十六景(葛飾北斎筆)をモチーフにした手帳カバーは大小2種あります。このほか土偶と埴輪をモチーフにした週刊手帳 weeks も販売中です。

## 4月1日、特設サイト リニューアル!

東京国立博物館創立150年記念特設サイトを2021年11月15日(月)に公開しました。現在創立150年を記念した動画等をご覧いただけます。4月1日(金)にリニューアルオープンする本サイトでは、創立150年ならではのさまざまな企画や最新情報をお届けします。どうぞお楽しみに。

<https://www.tnm.jp/150th/>

## 月イチ! トーハクキッズデー

2016年から年1回(1日)実施してきた「トーハクキッズデー」。2022年度は毎月第4日曜日に開催します! 心おきなくお子様と博物館を楽しんでもらえるイベントやスペースを用意して、皆様をお待ちします。

### 展示作品一覧

4月12日(火)～5月8日(日)

#### 見返り美人図

菱川師宣筆 江戸時代・17世紀(→16ページ)

5月10日(火)～6月5日(日)

#### 焔

上村松園筆 大正7年(1918)(→10ページ)

6月7日(火)～7月3日(日)

#### 春日宮曼荼羅

鎌倉時代・13世紀



(部分)

7月5日(火)～7月31日(日)

#### 蝦蟇鉄拐図

雪村周継筆  
室町時代・16世紀



(蝦蟇図・部分)

8月2日(火)～8月28日(日)

#### 源氏物語図屏風 (初音・若菜上)

土佐光起筆  
江戸時代・17世紀



(部分)

8月30日(火)～9月25日(日)

#### 山水図屏風

呉春筆  
江戸時代・18世紀



(部分)

9月27日(火)～10月23日(日)

#### 金胎仏画帖

平安時代・12世紀



※展示する頁が変更する場合があります。

10月25日(火)～11月20日(日)

#### 市川鯨蔵の暫

(碓井荒太郎貞光)

歌川国政筆

江戸時代・寛政8年(1796)



11月22日(火)～12月25日(日)

#### 形見の直垂(虫干)

川村清雄筆

明治32～44年  
(1899～1911)



2023年1月2日(火)～1月29日(日)

#### 玄圃瑤華

伊藤若冲自画自刻

江戸時代・明和5年(1768)

28件のうち、  
紫陽花・冬葵、石竹・梅花、  
末草・菊、  
薔薇、蕪、鳳仙花を展示



(玄圃瑤華のうち末草・薔薇)

2023年1月31日(火)～2月26日(日)

#### 江戸城本丸大奥

御対面所障壁画下絵

狩野(晴川院)養信筆

江戸時代・19世紀



(部分)

2023年2月28日(火)～3月26日(日)

#### 平家納経(模本)

田中親美模

原本: 国宝・厳島神社蔵  
大正～昭和時代・20世紀、  
原本: 平安時代・長寛2年(1164)



(厳島神社蔵 第二十七・部分)

33件のうち、  
信解品 第四、授記品 第六、化城喻品 第七、人記品 第九、  
宝塔品 第十一、提婆品 第十二、嚴王品 第二十七、  
平家納経経箱(模造)を展示

※展示する部分が変わる場合があります。

### 展示室でお花見を楽しめる スタンプラリーを開催!

「博物館でお花見を」期間限定で、東京国立博物館 鑑賞ガイドアプリ「トーハクナビ」で参加するクイズ形式のスタンプラリーを行います。



(昨年アプリ画像)

### 「花見で一句」を開催

期間中、桜をテーマにした俳句を募集します。詳細は当館ウェブサイトでお知らせいたします。

### 庭園で本物の桜も ぜひご堪能ください



整備が済んだ庭園は、通路やベンチを設置、路面も新しくするなど回遊しやすくなりました



### いろえおうちずさら 色絵桜樹皿

鍋島 江戸時代・18世紀  
本館13室  
2月1日(火)～4月24日(日)

鍋島焼が発案した見込中央抜きのデザインで、春爛漫と咲き誇る桜の貴重な気分を描きます

## 特別展

## 「ポンペイ」

平成館特別展示室 1月14日(金)～4月3日(日)

ナポリ国立考古学博物館は、同地を支配したブルボン王朝が18世紀に設立した歴史ある博物館で、王室に伝わる美術品に加え、ヴェスヴィオ山周辺の発掘品を収蔵する世界でも指折りのコレクションを誇ります。本展では同館の名品の数々をご覧ください。

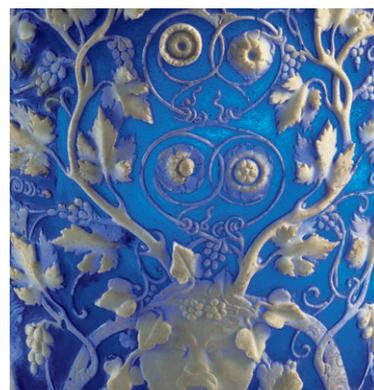
「メント・モリ」(死を忘れるな)と呼ばれるモザイク画は、髑髏を中心に生と死、貧富の象徴を配しています。どんなの上であつても死は平等に訪れるという、当時の死生観に目を見張ります。また、「青の壺」と呼ばれるガラス器は、紺青色のガラスに、白ガラスを重ねる技法でつくられた逸品。表面の白ガラス層には精緻な浮彫を施し、ワインづくりに精を出すクピド(ギリシャ・ローマの愛の神)たちの様子を描いています。(小野塚拓造・山本亮)

観覧料：一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円  
 展覧会公式サイト <https://pompeii2022.jp/>

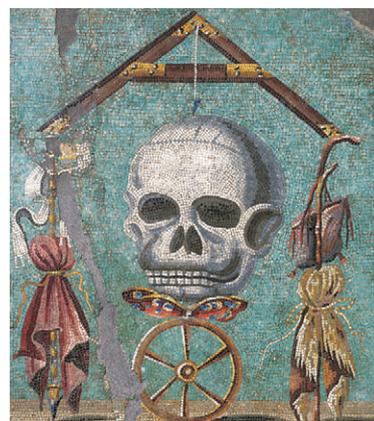
事前予約制(日時指定券)を推奨しています。会場でも当日券をご購入いただけますが、混雑状況により入場をお待ちいただく場合や、当日券の販売が終了している場合があります。詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。



ブドウ摘みを表わした  
 小アンフォラ(通称「青の壺」)  
 ポンペイ出土  
 ナポリ国立考古学博物館蔵  
 エジプトのアレクサンドリアなどで  
 つくられた高級なガラス器です



(部分)



テーブル天板  
 (通称「メント・モリ」)  
 ポンペイ出土  
 ナポリ国立考古学博物館蔵  
 「メント・モリ」は転じて「今を楽しもう」のメッセージにもなります

## 特別展

## 「空也上人と六波羅蜜寺」

本館特別5室 3月1日(火)～5月8日(日)

日本には高僧の肖像彫刻が数多くありますが、空也上人立像のように歩いている姿はあまりありません。それだけでなく、「南無阿弥陀仏」ととなえていることを意味する小さな仏像6体が口から出ているのはとてもめずらしい表現です。草鞋を履き、首から下げた鉦鼓を打ち鳴らしながら念仏をととなえて歩くこの姿は、市場で人々に念仏を勧めた空也の姿を彷彿とさせます。

鹿の角を付けた杖は、空也が可愛がっていた鹿が獵師に射られてしまったため、鹿の冥福を祈って、その角と皮を身に着けたという伝記に基づくものです。背中と膝まわりにある皺に皮の質感がみごとに表現されています。巨匠運慶の子、康勝の優れた技量がうかがえます。(浅見龍介)

※特別展会期中、本館11室でも六波羅蜜寺所蔵の仏像5体を展示します。

観覧料：一般1,600円、大学生900円、高校生600円  
 展覧会公式サイト <https://kuya-rokuhara.exhibit.jp/>

事前予約制(日時指定券)を推奨しています。会場でも当日券をご購入いただけますが、混雑状況により入場をお待ちいただく場合や、当日券の販売が終了している場合があります。詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。



◎空也上人立像 康勝作

鎌倉時代・13世紀 京都・六波羅蜜寺蔵  
 写真：城野誠治

念仏の声、鉦鼓の音、市場の雑踏の様子も思い浮かびます



(背面下半身部分)

この皺は布ではなく、皮を表したものでしょう。草鞋にも注目してください

## 沖縄復帰 50 年記念 特別展

# 「琉球」

平成館特別展示室 5月3日(火)祝～6月26日(日)

本展では、琉球列島の文化を育んだ自然や景観を表した出土品も展示します。

蝶形骨製品は沖縄の先史文化を代表する装身具で、ジュゴンの骨でつくられています。ジュゴンが生息するサンゴ礁の海は、人々に恵みをもたらす豊かな海の象徴でもあります。貝をはじめとする、海の素材を用いてつくられたさまざまな道具は、当地における文化の特色のひとつです。貝匙はヤコウガイがもつ大きさや形、そして真珠層の輝きを活かしてつくられたものです。鹿児島県奄美市の小湊フワガネク遺跡から出土した多量の貝匙の未完成品は、海を通じた交流や交易の様子を伝えています。(品川欣也)

観覧料：当日券＝一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円  
 展覧会公式サイト <https://tsumugu.yomiuri.co.jp/ryukyuu2022/>

※本展は事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性がございます。  
 ※詳細は確定し次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。



蝶形骨製品

縄文時代晩期・前1000～前400年  
 沖縄県読谷村吹出原遺跡出土  
 沖縄・読谷村教育委員会蔵  
 画像提供：世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム  
 紐で縛り組み合わせることで、大きな蝶が飛ぶ様子を表しています



貝匙

貝塚時代後期・6～7世紀 鹿児島県奄美市小湊フワガネク遺跡出土  
 鹿児島・奄美市立奄美博物館蔵 撮影：小川忠博  
 貝匙は20～30センチメートルにもなる大型のヤコウガイを素材に選んでつくられています

## 東京国立博物館創立 150 年記念 特別展

# 「国宝 東京国立博物館のすべて」

平成館特別展示室 10月18日(火)～12月11日(日)

本展は、東京国立博物館創立150年を記念して、膨大な所蔵品の中から国宝89件すべてを含む名品と、各時期の収蔵品や再現展示、映像などを通して東京国立博物館の全貌を紹介するものです(会期中展示替えあり)。これは150年の歴史上初めてのことで、誰も見たことがない、メモリアルイヤーにふさわしい展示が実現します。日本美術を代表する名品の数々はもちろん、日本でもっとも長い歴史を誇る最大の博物館、東京国立博物館の150年を多面的に紹介します。東京国立博物館が初めての方には新発見の場として、親しいリピーターの方には再発見の場として、魅力的な展示空間を創出します。(佐藤寛介)



檜図屏風

狩野永徳筆 安土桃山時代・天正18年(1590)  
 狩野永徳が描いた障壁画の傑作。檜の巨木の迫力は圧倒的で、生命力に満ちています



太刀 三条宗近(名物 三日月宗近)

平安時代・10～12世紀 渡邊誠一郎氏寄贈  
 日本刀成立期の刀工三条宗近の代表作。天下五剣のひとつで、もっとも美しいとされます

埴輪 挂甲の武人

群馬県太田市飯塚町出土 古墳時代・6世紀  
 今回が3年にわたる全面修理後の初公開です

観覧料金、入館方法等の詳細は、今後展覧会公式サイト等でお知らせします。

# 特集 おひなさまと日本の人形

本館14室 2月22日(火)〜3月21日(月・祝)

今年もやってきましたおひなさまの展示。三谷家伝来の雛飾りと山本家伝来の古今雛を中心に、当館が所蔵する御所人形の代表作を一堂に会した展示を行います。日本では諸外国に例をみないほど多様な人形文化が発達し、美術的にも高度な作品がつくられてきました。なかでも雛祭はその代表で、江戸時代中期以降になると贅を尽くした数々のおひなさまが登場します。また御所人形はその名が示すように宮廷を中心に発達した観賞用の人形で、ふくふくと肥えた姿の子どもの姿に生命の豊穡や幸福への願いが託されました。実は当館は隠れた名作人形の宝庫。毎年違う展示内容も見どころです！

(三田覚之)



## 気品溢れる 高貴な顔立ち

**古今雛**  
 末吉石舟作  
 江戸時代・文政10年(1827)  
 山本米子氏寄贈  
 名工として名高い末吉石舟が80歳の時に制作した古今雛の大作



## 京都御所の正殿を緻密に再現

**紫宸殿 (雛用御殿)**  
 江戸時代・嘉永3年(1850)頃 三谷てい氏寄贈  
 おそらく日本一精巧で豪華なおひなさまの御殿でしょう！



## 丸々とした佇まいがチャーミング

**御所人形 三人立子** 江戸時代・19世紀  
 可愛い御所人形たちが、お雛子を奏でながら行進します

## 特集

# 東京国立博物館 コレクションの保存と修理

平成館企画展示室 3月23日(水)〜4月17日(日)

当館では、文化財の保存と公開を両立し未来へ伝えるため、展示室や収蔵庫の環境を整備し作品の劣化を予防したり、さまざまな方法による状態調査で得られた情報をもとに必要に応じた修理をしたりと、文化財を維持するための幅広い取り組みを行っています。

本特集では、これらの取り組みのなかで

近年修理を終えた作品と、修理作業をわかりやすく解説したパネルを交えて展示し、当館の文化財保存の取り組みの一部をご紹介します。

今回は、伝宋汝志筆の重要文化財 雛雀、図や、重要文化財 縫箔白地草花肩裾模様、韓国・梁山夫婦塚出土の鉢など、計12点の作品を展示いたします。(宮田将寛)

## 本来の表装がよみがえる

**雛雀図**  
 伝宋汝志筆 中国 南宋時代・13世紀  
 浅野家旧蔵  
 本紙の折れや損傷のあった箇所を修復し、元の掛軸装に仕立て直しました



## オリジナルに近い姿へ

**鉢**  
 三国時代(新羅)・6世紀初頭  
 韓国・梁山夫婦塚出土  
 欠損部を樹脂で補うことで本来の姿に近い形で展示できるようにしました



## 補修のために、裂や糸から再現

**縫箔 白地草花肩裾模様**  
 安土桃山時代・16世紀 奈良・金春家伝来  
 絹の補修裂と糸を作製し、絹地の裂けや刺繡糸の浮きを補修しました



極彩色の画面がインパクト大 (部分)

たいまんだらす  
当麻曼荼羅図 神田宗庭隆信筆

江戸時代・天保7年(1836) 下野三悦坊伝来 喜多川儀久氏寄贈  
阿彌陀如来の浄土を描いています。濃厚な彩色が美しいです

本特集では、江戸時代に制作された仏画を展示します。仏画というと、平安時代や鎌倉時代に制作された古い作例を想起される方が多いかもしれませんが、実際、江戸時代の仏画は展示の機会が少ないです。しかし、当館には、寺院に所属した絵師や画僧、狩野派や琳派の絵師が描いたもの、庶民に親しまれた大津絵など、幅広い作例が所蔵されます。それらのなかには古い仏画の伝統を受け継ぐだけでなく、描き手や注文者の意向を反映した独自の改変が加えられた作例も見られます。鮮やかに残る美しい色彩に、仏画が本来もつ鑑賞性の高さを味わうことができますのも、江戸時代の仏画の魅力です。

(沖松健次郎・古川攝一)

特集  
とうきょうこくりつはくぶつかん  
東京国立博物館の  
近世仏画が  
— 伝統と変奏 —

本館特別1室・特別2室 4月5日(火)～5月29日(日)



古い仏画の  
影響力を示す

ふどうみょうおうにどうしごう  
不動明王二童子像

勝山琢舟筆  
江戸時代・18世紀  
比叡山に伝わった鎌倉時代の作例を写しています

怪しげな  
気配漂う聖者たち

ごひゃくろくかんぞう  
五百羅漢像

狩野一信筆  
江戸時代・19世紀  
富美宮允子内親王・  
泰宮聡子内親王御下賜  
悟りに至った聖者たちですが、ちょっと怪しい雰囲気  
に描かれます  
※会期中、展示替えがあります。



(第二十五幅4月5日(火)～5月8日(日))



ひこねさらさ しろしたちきむしくいどりもんようさらさ  
彦根更紗 白地立木虫喰鳥文様更紗  
インド 18世紀 井伊家伝来

異国情緒漂う鳥と蝶。染めの技術が凝縮されたカラフルな羽が目を引きます

エキゾチックな  
鳥の文様が華やか



じんぼおりくろとりけ たいはく もしもよう  
陣羽織 黒鳥毛「太白」文字模様  
安土桃山時代～江戸時代・16～17世紀  
伝瀬原康政所用

羽が沢山うめこまれた奇抜なデザイン。  
気持ちをたかめて、いざ出陣!

背中の文字まで  
鳥の羽で表現



今にも羽ばたきそうな  
躍動感

特集  
おや親と子のギャラリー  
つばさはね  
翼と羽

平成館企画展示室  
4月26日(火)～5月29日(日)

当館は、毎年、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館との3館園連携企画「上野の山で動物めぐり」を行っています。15回目となる今回のテーマは「翼と羽」です。展示は2部構成で、第1部の「翼」では、大きな翼を広げた鳥をはじめ、翼をもつ神々や人に着目します。第2部の「羽」では、美しい羽が際立つ孔雀などをモチーフとした作品、鳥の羽(羽根)そのものを素材とした作品、そして蝶に代表される昆虫の羽(翅)を取り上げます。人間には備わっていない翼や羽の特徴やはたらきを、古くからどのように理解し、表現したか、さまざまな分野の作品を一堂に会しながら、わかりやすくご紹介します。(横山梓)

じさいかおきもの  
自在鷹置物

明珍清春作  
江戸時代・18～19世紀  
パーツを動かせる金属の置物。翼を大きく広げた、迫力ある姿にご注目

# Pick up!

## 本館

歌人たちの姿に個性が表れています

重文 **為家本**

時代不同歌合絵

4月26日(火)～6月5日(日)

3室 宮廷の美術―平安～室町



◎為家本時代不同歌合絵 鎌倉時代・14世紀

歌合とは、歌人を左右のグループに分けて和歌の優劣を競う遊芸です。『時代不同歌合』は過去と同時代の歌人を合わせた架空の歌合です。後鳥羽天皇(1180～1239)が編んだもので、成立後間もなく、歌人の姿を添えた形態で鑑賞されていたようです。

本作は、鎌倉時代中期の歌人、藤原為家(1198～1275)が歌を記したと伝えることから為家本と呼ばれます。歌人の姿は彩色を施さない白描画で、細部まで神経の行き届いた美しい墨線が見どころです。写真もない時代、過去の歌人は参照する画像もなく想像で描かれています。『それらしく』見えるのは絵師の力量といえるでしょう。(土屋貴裕)

## 本館

宴席を華やかに盛り上げた器

山水楼閣

人物箔絵東道盆

3月8日(火)～4月17日(日)

16室 アイヌと琉球



山水楼閣人物箔絵東道盆 沖縄本島 第二尚氏時代・19世紀

東道盆とは、宴席で賓客をもてなす際に用いた琉球漆器を代表する器です。このような器は中国や朝鮮半島、東南アジアにも類品が見られますが、上面が平らな扁球状の器に猫足を付すものは琉球で一般的です。蓋表には朱漆地に箔絵で山水や楼閣を描き、その周囲は唐草文や七宝繋ぎ文などで飾られています。また内側に納められた銅製の小皿は青地に草花模様が配されています。

(品川欣也)

朱と青のコントラストが美しい器に、上質な酒の肴が一皿一皿に盛り付けられた様子を想像してご覧ください。

## 東洋館

不老長寿の象徴を優美に描いた作品

崑崙松鶴図軸

4月12日(火)～5月22日(日)

8室 中国の絵画 花鳥画の世界



崑崙松鶴 松鶴 呂健筆 中国時代 16～17世紀

仙人の住む伝説の山、崑崙山を舞台に、長寿のシンボルである松と鶴を描きます。李懷素という人物の長寿を祝う贈り物としてつくられました。

呂健は、呂紀という明の宮廷画家の子孫です。呂紀は、華やかな色彩による迫力ある大画面花鳥画を描きました。呂健は、呂紀の画風を、より瀟洒で可憐な表現に変化させていきまし

た。細く長い首を優美にくねらせた鶴、淡い緑でやわらかくぼかされた松葉は、呂健の美意識をよく伝えていきます。薄墨による陰影で巧みに盛り上がりを表した波や、透明感のある白い線で細かに描かれた羽毛など、優れた描写技術も見どころです。(植松瑞希)

## 東洋館

緻密なタッチで描かれた叙事詩の一場面

ハヌマーンのラーマへの会見(ラーマヤナ)

4月5日(火)～5月8日(日)

13室 インドの細密画



ハヌマーンのラーマへの会見(ラーマヤナ) メーワール派 インド 17世紀前半

インド人は、古代インドの叙事詩で、ヒンドウ教の聖典のひとつにも数えられている『ラーマヤナ』を好んで細密画に描いてきました。これは主人公のラーマ王子が、誘拐された妻シターを取り戻そうと、大軍を率いて鬼神の王ラーヴァナに立ち向かうという物語です。物語のなかで、猿族のひとりであるハヌマーンが、南海の島に捕らわれているシターを発見し、ラーマに知らせるといふくだりがあります。この絵はまさにその場面を描いたと考えられます。作者はハヌマーンを顔が猿、手足や胴体が人、そして細長い尾をもつ姿に描くことで、神性を表現しようとしたのです。(勝木言一郎)

総合文化展 **Pick up!**

平成館

牙の強さにあやかっていたお守り

犬歯製垂飾

通年展示

考古展示室

「熊」といえば可愛らしい姿やキャラクターを想像する方もいるでしょう。しかし実際には他を圧倒する巨大さと力強さで、食物連鎖の頂点に立つ動物として知られています。

今回ご紹介する牙製垂飾は、ツキノワグマの下顎の犬歯に穿孔してつくられたネックレスです。縄文時代にはさまざまな動物が狩猟されましたが、生身で立ち向かう縄文人は身をもつてクマの恐ろしさを感じていたことでしょう。ほかにもイノシシやオオカミ、オットセイやサメの歯などが垂飾として用いられますが、いずれも人間にはない強靱さや俊敏さをもつことから、自然に対する畏怖の念をこめて身に着けていたのかもしれない。(飯田茂雄)



犬歯製垂飾

縄文時代  
(後～晩期)・  
前2000～前400年  
岩手県陸前高田市  
瀬沢貝塚出土  
徳川頼貞氏寄贈

法隆寺宝物館

宝物を包んでいた華やかな布

紫地円花文錦包裂

4月26日(火)～5月22日(日)

第6室 書跡・染織



紫地円花文錦包裂 (部分)  
鎌倉時代・13～14世紀

法隆寺伝来の染織品というと、飛鳥・奈良時代だけのように思いますが、実は中世以降の作品も少数ながら伝来しています。これはその1点で、もとは「夏御褥」という作品の包みでした。「夏御褥」は因幡国(現在の鳥取県に所在)の能曾姫が聖徳太子に献上した夏用の寝具と伝えられるもので、生絹と呼ばれる生糸を織った涼やかな手触りの絹織物に真綿を入れていたと記録にあります。ただし現在は大破した状態で、この包みのみを展示しています。小菊を収めた円紋と小さな花を収めた唐草紋を交互に表した華麗な包みからは、宝物を大切に守り伝える心が伝わってきます。(三田寛之)

黒田記念館

人柄を偲ばせる肖像画

佐野昭肖像

5月8日(日)

黒田記念室



佐野昭肖像  
黒田清輝筆 明治32年(1899)

視線を斜めに外した構図、淡い紫と灰緑の使用(肌や瞳にも用いられています)、大づかみな筆致は、この作品に、公的な肖像画とは異なる柔らかな印象を与えています。像主は彫刻家の佐野昭(1866～1955)で、画面左上の記載から、明治32年(1899)1月5日「駿州静岡保養館(現在の沼津市静岡)」にて完成したことがわかります。親しかった黒田清輝、久米桂一郎らと年始を祝った後に描かれたものです。翌年、黒田と佐野はパリ万博の視察に赴くのですが、船内で佐野が日本の歌を歌うなどして人々を盛り上げたことが、黒田の日記に記されています。

黒田にとって佐野がどのような友人だったのか、想像の膨らむ作品です。  
(東京文化財研究所・吉田暁子)

今後の発展が期待される  
近世仏画研究

「調査研究」。その一端をご紹介します。

トーハクの調査研究 ⑮

近世仏画は、平安・鎌倉時代に制作された仏画に比べ、調査や研究が少なく、今後の進展が期待される分野です。昨春秋に開催された特別展「最澄と天台宗のすべて」では、栃木・輪王寺に伝わる作例を展示しました。近世仏画は古い時代の仏画を考えるうえで重要です。制作当初の彩色や表装が残されている作例が多いためです。さらに、寄進者や注文者、絵師の名前が残される作例もあり、仏画制作の様相を具体的に知ることもできます。当館のコレクションにも近世仏画があり、現在調査を進めています。今春の特集展示「東京国立博物館の近世仏画―伝統と変奏―」(17ページ)で、成果の一部を紹介いたします。(古川攝一)



表現技法や作品の状態を確認しています

4

茶の美術

-3/21(月)・祝

からものかたつきちやいれ めい しやうざん  
**唐物肩衝茶入 銘 松山**  
 中国 南宋～元時代・13世紀  
 原田吉蔵氏寄贈



3/23(水)・6/5(日)

あおい どりやわん と きい ど  
**青井戸茶碗 土岐井戸**  
 朝鮮 朝鮮時代・16世紀 広田松繁氏寄贈  
 胴部に残るろくろ目、高台脇の豊かな  
 かいらぎ(釉葉の縮れ)が見どころです

3-3

禅と水墨画  
 | 鎌倉～室町



3/15(火)・4/24(日)

らんげいどうほうず  
**蘭蕙同芳図**  
 玉晚梵芳筆  
 南北朝時代・14世紀  
 高潔な人物を象徴する  
 蘭の花。伸びやかな曲  
 線美が見どころです

4/26(火)・6/5(日)

しゅばいしんず  
**朱買臣図**  
 伝狩野元信筆  
 旧大仙院方丈障壁画  
 室町時代・16世紀



(部分)

3-2

宮廷の美術  
 | 平安～室町



3/15(火)・4/24(日)

るいじゆうたあおせ  
**類聚歌合**  
 伝藤原忠家筆  
 平安時代・12世紀  
 田中親美氏寄贈

4/26(火)・6/5(日)

ためいえほんじ だいふ どううたあせえ  
**為家本時代不同歌合絵** (→8ページ)  
 鎌倉時代・14世紀  
 時代の異なる歌人たちの和歌の競演。  
 画像は伊勢と藤原清輔です



(部分)

3-1

仏教の美術  
 | 平安～室町



3/15(火)・4/24(日)

しゃかくそぞう  
**釈迦六祖像**  
 鎌倉時代・13世紀  
 釈迦を中心に奈良仏  
 教に関りが深い祖師  
 たちが描かれています

4/26(火)・6/5(日)

あじまんだらす  
**阿字曼荼羅図**  
 南北朝時代・14世紀 岡崎正也氏寄贈  
 物事の根源を象徴するア音の文字と一体化すること  
 をイメージするための図です



案内 2階 流れ



1-1

日本美術のあけぼの  
 | 縄文・弥生・古墳



-7/3(日)

ほにお おど ひとびと  
**埴輪 踊る人々**  
 古墳時代・6世紀  
 埼玉県熊谷市  
 野原古墳出土  
 独創的な造形の人物埴輪です。この  
 展示の後に修理を  
 する予定です



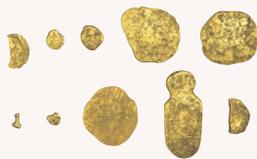
ひとがたそろしくつぎつぎがたど き  
**人形装飾付壺形土器**  
 縄文時代(後期)・  
 前2000～前1000年  
 青森県弘前市十腰内出土

1-2

仏教の興隆  
 | 飛鳥・奈良

-4/24(日)

こうふくじちんだんぐ きんかい  
**興福寺鎮壇具 金塊**  
 奈良時代・8世紀  
 奈良市興福寺中金堂須弥壇下出土  
 奈良時代、興福寺の中金堂を建立する際に  
 地鎮のため埋納された宝物のひとつです



-6/5(日)

ずい か さんげいほうまう  
**瑞花撥祝方鏡**  
 奈良時代・8世紀  
 京都市西京区山田  
 桜谷町出土  
 荒木音次郎氏寄贈



2

国宝室  
 (特集 未来の国宝 | 東京国立博物館 書画の逸品)



4/12(火)・5/8(日)

みかえ びしんず  
**見返り美人図**  
 菱川師宣筆  
 江戸時代・17世紀  
 (→16ページ)

(部分)

5/10(火)・6/5(日)

まのむす  
**焰**  
 上村松園筆  
 大正7年(1918)  
 「たった一枚の凄艶  
 な絵」と松園が語る、  
 生霊となった六条御  
 息所の姿を描くとさ  
 れています



**-3/21(月)・祝**  
 とら なみずりょうぶ  
**虎に波図屏風**  
 岸駒筆 江戸時代・文政6年(1823)  
 京都を中心に活躍した岸駒は虎の絵を得意としました。震えるような筆遣いが特徴です



(右隻)

**3/23(水)・5/8(日)**  
 きつやまがきすびょうぶ  
**桜山吹図屏風**  
 伝依屋宗達筆 江戸時代・17世紀  
 田沢房太郎氏寄贈  
 桜と山吹が咲きほこる春。宗達風の意匠美豊かな屏風です



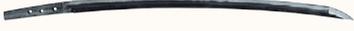
(右隻)

**7**  
**屏風と襖絵**  
 安土桃山・江戸

**3/15(火)・6/5(日)**  
 くろわかつまどりおしのどうまる  
**◎黒韋肩妻取威胴丸**  
 室町時代・15世紀



**3/23(水)・6/12(日)**  
 たな でんおさむねもとしげ  
**◎刀 伝長船元重** 南北朝時代・14世紀



**◎朱漆打刀(◎刀 伝長船元重の拵)**  
 安土桃山~江戸時代・16~17世紀  
 徳川家康の次男結城秀康の指料で、朱漆塗の鞘が鮮やかです



**5・6**  
**武士の装い**  
 平安~江戸

**3/23(水)・6/5(日)**  
 いろ えおしゆ す つかしぼら  
**色絵桜樹図透鉢**  
 仁阿弥道八作  
 江戸時代・19世紀



**8-1**  
**暮らしの調度**  
 安土桃山・江戸

**てっせんまき え さげだん す**  
**鉄線蒔絵提篋筒**  
 江戸時代・17世紀  
 小物などを持ち運ぶ携行用の篋筒。品よく華やかに場を演出します



**3/23(水)・5/8(日)**  
 きらく はるくさす  
**桜に春草図**  
 尾形乾山筆  
 江戸時代・18世紀  
 山本富子氏・山本賢二氏寄贈  
 満開の桜と春の草花。和歌は咲き誇る桜を將軍の権力にたとえた祝いの歌です



**5/10(火)・6/26(日)**  
 いちぎょうしよ  
**一行書**  
 じっしよびんざんのかつ  
**「十景岷山高」**  
 伊達政宗筆  
 江戸時代・17世紀  
 杉山東一氏寄贈  
 意外な書き順と絶妙な文字のバランス。見るほどに発見のある作品です



**8-2**  
**書画の展開**  
 安土桃山・江戸



**3/8(火)・5/8(日)**  
 あついた むらさきうすちやくこん  
**厚板 紫淡茶紺**  
**浅葱白段**  
**牡丹唐草模様**  
 奈良・金春家伝来  
 江戸時代・18世紀  
 染め分けた経糸をずらした優美な段模様は、まさに幽玄の境地です



**5/10(火)・7/3(日)**  
 からおり べにもえ ぎ だんりゅうすい  
**唐織 紅萌葱段流水に**  
**菖蒲模様**  
 江戸時代・18世紀  
 金糸織の流水文から生える菖蒲模様が清楚な、若い女性役の衣装です



**9**  
**能と歌舞伎**

**浮世絵**



**3/8(火)・4/10(日)**  
**飛鳥山花見**  
 鳥居清長筆 江戸時代・18世紀  
 桜の名所、飛鳥山をワイドな画面を使って効果的に描いています

**4/12(火)・5/8(日)**  
**め組の喧嘩**  
 豊原国周筆 明治時代・19世紀  
 町火消のめ組の辰五郎と力士の四ツ車大八の乱闘場面を描いた迫力ある作品です



**衣装**

**3/8(火)・5/8(日)**  
**小袖 紫白染分**  
**縮緬地笠扇桜文字模様**  
 江戸時代・18世紀  
 歌を「カタカナ」で散らす点が珍しい、友禪染の優品です



**5/10(火)・7/3(日)**  
**◎小袖 白黒紅染**  
**わけりんすじのしふじもよう**  
**分輪子地熨斗藤模様**  
 江戸時代・17世紀  
 刺繍や金の箔摺で埋め尽くすように装飾を施した「地無」の小袖です



**10**  
**浮世絵と衣装**  
 江戸

15

歴史の記録

-3/21月・祝

◎日本沿海輿地図(中図)九州北部  
伊能忠敬作 江戸時代・19世紀



3/23水-5/15日

◎日本沿海輿地図(中図)九州南部  
伊能忠敬作 江戸時代・19世紀

縮尺は21万6千分の1。本図は九州南部を中心に、南西諸島のうち種子島、屋久島等を描きます



14

特集

-3/21月・祝

「おひなさまと日本の人形」  
(→6ページ)

◎犬篋 江戸時代・19世紀  
高橋しな子氏寄贈

人面犬!? 婚礼や出産の場、また雛壇にも飾られたお守りの箱です



3/23水-5/15日

「東南アジアのやきもの一収集と研究の軌跡」

◎紅安南唐草文茶碗

ベトナム 岡野繁蔵氏旧蔵 16世紀

赤を基調とした文様が特徴の「紅安南」。日本からの注文品と考えられています



案内 1階 展示



13-3

陶磁

-4/24日

◎錆絵十体和歌短冊皿

乾山、「八十一歳乾山」錆絵銘  
江戸時代・寛保3年(1743)

皿を短冊に見立て、十体の和歌を書き込んだ風雅に富んだ作品です



(10点のうち5点)



4/26火-7/18月・祝

◎黄瀬戸草花文平鉢

美濃 安土桃山~江戸時代・16~17世紀  
広田松繁氏寄贈

13-2

刀剣

-5/8日

◎太刀 青江守次 南北朝時代・延文2年(1357) 渡邊誠一郎氏寄贈



-5/15日

◎巴透鐺

信家作 安土桃山時代・16世紀  
尾張国の鐺工信家の代表作。絶妙なデザイン感覚が見どころです

11

彫刻

-4/24日

◎千手観音菩薩坐像 南北朝時代・14世紀

角張った顔や曲線的な衣の装は、中国彫刻の作風を取り入れた表現です



5/10火-8/28日

◎四天王眷属立像 (南方天眷属)

康円作 鎌倉時代・文永4年(1267)

12

漆工

-5/15日

◎黒漆根古志形鏡掛

平安~鎌倉時代・12~13世紀  
名称は根つこのような形から。鏡掛の古い形式で、傘のように畳めます



◎千鳥蒔絵手箱  
鎌倉時代・13世紀

13-1

金工

3/1火-5/22日

◎重丸瓶形梅唐草文七宝水滴

江戸時代・18世紀  
渡邊豊太郎氏・渡邊誠之氏寄贈  
器の上面に七宝で梅唐草の文様を表した銅(真鍮)胎七宝の水滴です



◎七宝茶壺形引手  
江戸時代・18世紀



# みどりのライオン

※掲載されている催し物につきましては、今後、予告なく変更・中止する場合がございます。当館ウェブサイト等でご確認ください。また、動画配信については、公開済、公開予定のコンテンツを掲載しています。



みどりのライオン  
オンライン

## 体験型展示

### 「日本文化のひろば」オープンしました！

2022年1月、本館特別4室に、楽しいひろばがオープンしました。「うるし」「よらい」「きもの」「浮世絵」をテーマに、スタンプやぬりえ、デジタルコンテンツなどをお楽しみいただけます。文化財を見る前や見た後に、日本の文化の魅力や楽しさを体験できる展示です。



スタンプで浮世絵の重ね摺りを体験できます

オンライン

ガイドツアー

### 「トーハク劇場へようこそ！ 考古展示室編」

展示作品の歴史を知りたい！考古展示室を舞台にした演劇形式のガイドツアーを、たくさんの方にお届けできるよう、映像版にして当館 YouTube チャンネルで公開します。春休みのお楽しみとして、劇場でお芝居を観るような、わくわくした気分でご覧ください。



2017年実施の様子

公開日時：3月25日（金）18:00～（40分程度）

※映像のみ公開。対面実施はございません。視聴方法：当館ウェブサイト「みどりのライオン オンライン」のページに、3月21日（月・祝）以降に視聴用URLを掲載いたします。

オンライン

ギャラリートーク

### 「西晋時代の副葬品」

講師：市元 壘（東洋室長）  
魏・蜀・呉の三国鼎立に終止符をうった西晋王朝ではどのようなお墓が築かれ、どのような副葬品がつけられたのかをご紹介します。



### 「博物館に初もうで 今年もトーハク 150周年！めでタイガー!!」

講師：古川 攝一（平常展調整室研究員）、沼沢 ゆかり（保存修復室研究員）  
毎年恒例の博物館に初もうで。今年の干支「寅」にちなんで、虎と美術のかかわりを、日本やアジアの作品からご紹介します。展示室の雰囲気とともに楽しみください。



### 「埴輪物語—群馬県伊勢崎市赤堀村 104 号古墳—」

講師：河野 正訓（特別展室主任研究員）  
近年の発掘や海外での活躍と関連付けながら、「埴輪 鋤を担ぐ男子」の魅力と人気の秘密について解説します。

※ 月例講演会は当館大講堂にて実施しております。詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。（事前申込制）



ご自宅等でお楽しみいただけるよう動画を YouTube で配信しています。

東京国立博物館  
YouTubeチャンネル

3/8㊄-4/17㊄

じんばおり 陣羽織 北海道アイヌ 19世紀



16

アイヌと琉球

4/19㊄-5/29㊄

じゆかじんぶつらでんちんきんじきろう 樹下人物螺鈿沈金食籠

沖縄本島 第二尚氏時代・18世紀  
中国文人の理想像を螺鈿技法で描いた重箱状の器。宴席で用いました



3・4・5月

# 本館展示 ジャンル別

18

近代の美術



-4/17㊄

シャクンタラ姫とドウシャンタ王

佐藤朝山作 大正5年(1916)  
インドの説話を題材にした恋物語の官能的で神秘的な木像彫刻です

4/19㊄-5/29㊄

うんちゅうふじ 雲中富士

横山大観筆 大正2年(1913)頃  
雲海からのぞく富士。色面構成で表す山肌や雲の表現が斬新です



(部分)

## 臨時休館に伴う会員制度の有効期限延長について

新型コロナウイルス感染症対策により、2021年4月25日(日)から5月31日(月)にかけて臨時休館したことに伴い、会員制度の有効期限を延長しております。窓口での延長手続きは不要ですので、対象となる会員証および各種無料券を入口等でご提示ください。なお、賛助会につきましては、有効期限の延長は行いませんので、ご了承ください。

### 【対象】

有効期限2021年4月25日(日)～2022年5月30日(月)の「友の会」「メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス(4館共通)」の会員証をお持ちの方。その他、他館会員制度や、寄附特典等で配布された各種無料券も延長対象となります。

### 【延長期間】

会員証・総合文化展招待券・ミュージアムシアター無料観覧券(鑑賞チケット引換券)→元の有効期限から37日間(臨時休館日数分)延長

特別展観覧券→元の有効期限から3カ月間延長

※詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

## 「冬木小袖」修理プロジェクトご支援ありがとうございました!

重要文化財「小袖 白綾地秋草模様」(通称「冬木小袖」)修理のためにご寄附を募る本プロジェクトは、2021年12月末をもって寄附の受入を終了しました。総額は16,451,470円に達し、目標額を大きく上回るご支援をいただくことができました。関係者一同、心より感謝申し上げます。



修理の様子(折れシワ緩和)

「冬木小袖」は2022年末に本格修理が完了し、2023年には総合文化展での展示を予定しています。修理報告や今後の展示情報などは、文化財活用センターウェブサイトを通じてお伝えしていきます。引き続きご注目ください。



「冬木小袖」修理プロジェクト

## 宇宙飛行した遮光器土偶フィギュアを展示

当館所蔵の重要文化財「遮光器土偶」(青森県つがる市木造亀ヶ岡出土)のミニチュアフィギュアの宇宙飛行が、2021年、野口聡一宇宙飛行士3回目の国際宇宙ステーション(ISS)滞在中に実現しました。日本の文化財フィギュアとして、初めて宇宙を旅した遮光器土偶を展示公開します。

期間:2022年4月5日(火)～2023年4月2日(日)

場所:平成館1階考古展示室前

※野口聡一宇宙飛行士

「世界で初めて3種類の帰還(滑走路、地面、海面)を達成した宇宙飛行士」としてギネス世界記録に認定。国際宇宙ステーション(ISS)滞在通算日数335日、船外活動4回は日本人最多。

## 手ぬぐいをプレゼント

大好評の伊藤若冲自画自刻の「玄圃瑤華」<sup>びんぼうか</sup>を使用したポスターデザインの手ぬぐいを10名様にプレゼントします。締切は6月10日(金)必着。

### \*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

※手ぬぐいは1種類のみです。販売はしていません。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館 広報室「ニュース3・4・5月号」プレゼント係



## 総合文化展の事前予約制を一時休止します(4月1日(金)～)

総合文化展は、2020年6月2日(火)より事前予約制としておりましたが、2022年4月1日(金)入館より事前予約制を一時休止し、事前予約無しでご入館いただけます(3月31日(木)入館までは事前予約〈日時指定券〉推奨です)。

なお、当館は公益財団法人日本博物館協会が策定した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(2021年10月14日付)に基づき、感染対策を引き続き徹底いたします。感染対策については当館ウェブサイトにてご確認ください。

### 【入館方法(4月1日(金)～)】

- ・事前予約無しでお越しください。チケットは正門券売所でご購入ください。
- ・展示施設ごとに滞在人数を調整いたします。そのため、混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性がございます。

※特別展の入館方法は展覧会ごとに異なります。詳細は特別展公式サイト等をご確認ください。

## 東京・春・音楽祭2022

「東京・春・音楽祭」は、桜咲く上野を舞台に東京の春の訪れを音楽で祝う、国内最大級のクラシック音楽の祭典です。18回目を迎える音楽祭は、今回もミュージアム・コンサートを当館平成館ラウンジと法隆寺宝物館エントランスホールで開催します。

- ①東博でバッハ vol.54 伊藤悠貴(チェロ)  
日時:3月23日(水) 19時開演(18時30分開場)
- ②東博でバッハ vol.55 藤木大地(カウンターテナー)  
日時:3月30日(水) 19時開演(18時30分開場)
- ③東博でバッハ vol.56 中村太地(ヴァイオリン)  
日時:3月31日(木) 19時開演(18時30分開場)
- ④東博でバッハ vol.57 小暮浩史(ギター)  
日時:4月7日(木) 19時開演(18時30分開場)
- ⑤東博でバッハ vol.58 三浦謙司(ピアノ)  
日時:4月14日(木) 19時開演(18時30分開場)

会場:①③④法隆寺宝物館エントランスホール/②⑤平成館ラウンジ  
料金:4,000円(予備)

主催:東京・春・音楽祭(Tel:03-5205-6401)

チケットをお求めの際は東京・春・音楽祭チケットサービス(<https://www.tokyo-harusai.com/>)をご確認ください。

## TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品「国宝 松林図屏風一乱世を生きた絵師・等伯一」

3月27日(日)まで

東京国立博物館所蔵の数ある国宝のなかでも、安土桃山時代を代表する巨匠 長谷川等伯が描いた「松林図屏風」は極めて人気の高い作品です。また、一方で実は謎の多い作品でもあります。本VR作品では、等伯の画業の歩みを辿り、日本水墨画の最高傑作とも称される松林図の魅力と謎に迫ります。



料金:一般・大学生・高校生600円、小学生・中学生300円、未就学児・障がい者とその介護者各1名は無料(1作品/1回あたり)、別途入館料が必要です。開演時間までにチケットをお買い求めください(当日券のみ)。※所要時間 約35分です。

【予告】VR作品「東博のミイラ デジタル解剖室へようこそ」  
4月1日(金)～7月24日(日)(予定) ※小学生以下:鑑賞料無料(通常300円)

※演出・スケジュール・定員は、都合により変更となる場合がございます。  
※詳細はウェブサイト(<https://www.toppa-vr.jp/mt/>)をご覧ください。

※3月30日(水)・31日(木)は上演設備メンテナンスのため休演いたします

## 3・4・5月の休館日情報

休館日	3月	4月	5月
	7日、14日、22日	4日、11日、18日、25日	9日、16日、23日、30日

※開館時間、休館日等の最新情報は東京国立博物館ウェブサイトをご覧ください。※3月28日(月)、5月2日(月)は臨時開館します。  
※2月21日(月)～4月4日(月)まで、東洋館11室～13室は展示環境整備のため閉室します。

### ◆東京国立博物館利用案内

**総合文化展観覧料金** 一般1,000円、大学生500円

- 2022年3月31日(木)まで入館は事前予約(日時指定券)推奨となります。  
[入館可能時間]9:30～12:30、12:30～16:30  
※滞在時間の制約はありません。
- 2022年4月1日(金)からは事前予約不要となります。  
※混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性があります。
- 障がい者とその介護者1名は無料。  
満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方は無料。  
国際博物館の日(5月18日<水>)、敬老の日(9月19日<月・祝>)、文化の日(11月3日<木・祝>)は、総合文化展のみ観覧無料。

詳細は東京国立博物館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジンで!

東京国立博物館ウェブサイト  
<https://www.tnm.jp/>



**【ご注意】** 2021年4月1日(木)より、賛助会員制度及び会員制度を以下のように改定し、賛助会は名称及び特典、会員制度は年会費及び特典が変更となっております。詳細は当館ウェブサイトやチラシをご確認ください。なお、2021年3月31日(水)までに発行された会員証の特典は、有効期限内に限りご利用いただけます。

### ◆東京国立博物館賛助会員(寄附会員制度)募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。寄附金控除の対象になります。

**【主な特典】** 特別展内覧会へのご招待 など

**【年会費】** <団体> プレミアム会員 1,000万円以上、特別会員 100万円(1口)、維持会員 20万円  
<個人> プラチナ会員 100万円以上、ゴールド会員 20万円、シルバー会員 5万円

**【申込方法】** 会員受付窓口、ウェブサイト(クレジットカード決済)、銀行振込  
詳細は担当までお問合せください。

### ◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。

**友の会** 発行から1年間有効 年会費:7,000円

**【特典】** 東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショップ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

\*2021年4月以降にお申込みの方で、本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

### 国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効 年会費:一般2,500円、学生1,200円

**【特典】** 東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能

### 東京国立博物館ニュース定期購読

年会費:1,000円(1年分)

**【特典】** 東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。\*次号(6-8月号)より送付をご希望の場合、締切は2022年5月10日(火)です。

### ○申込方法

1. 会員受付窓口  
当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます。(現金またはクレジットカード、電子マネー)。

2. ウェブサイト  
専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替<振替用紙を送付)>。

3. 郵便振替  
●振替用紙に①種別(友の会、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生<4館共通のみ>)、③メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名(ふりがな)、⑦電話番号を通信欄・ご依頼人欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。

加入者名:東京国立博物館会員制度  
口座番号:00140-3-791791

●友の会または国立博物館メンバーズパス(4館共通)にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。

●振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。

●振替手数料はお客様負担となります。

●ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

\*一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

\*お申込みの際にご提供いただいた個人情報は、当該目的のみに使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

### ◎お問合せ

電話 03-3822-1111(代) / FAX 03-3821-9680

総務課渉外開発担当

\*月～金曜日の9:30～17:00(土日・祝日は除く)

## 2022年度注目の企画

「博物館でアジアの旅」 9月21日(水)～10月16日(日) / 「博物館に初もうで」 2023年1月2日(月・休)～1月29日(日)  
「博物館でお花見を」 2023年3月14日(火)～4月9日(日)



# 表紙の名品

2022年3月・4月・5月号

## みかえ びじんず 見返り美人図

4月12日(火)～5月8日(日) 本館2室

「特集 未来の国宝 —東京国立博物館 書画の逸品—」にて展示

### 最上級のファッションと計算された構図、江戸時代美人画の傑作

左側へと歩いてきたあざやかな緋色の着物の少女が、ふと足をとめて振り返って反対側を見ているという一連の動きのなかの一瞬が描かれています。少女の視線の先には、ひとりの「男性」がいることも、当時の人々には立ちどころに思い描いたでしょう。多くの人々が行きかう雑踏で、聞き違えることはない声をこの女性には聞き、振り返ったのかも知れません。このような「見返り」のポーズは、古く日本絵画に数多く描かれたもので、その背後にあるストーリーもよ

く知られていました。横顔だけが見える後姿から、当時のファッションの流行が垣間見えます。髪には高級品の鬘まげ甲かぎ(ウミガメの一種、タスマイの甲羅)の櫛をさしています。「玉結び」という下げた髪の毛の先端を曲げて輪にする髪型は、江戸時代の貞享(1684～1688)頃に流行しました。振袖の柄には桜と菊が円形にあしらわれていて「花の丸模様」とよばれるこうした模様は、植物そのものを写実的に示すというよりも、記号性が高い造形表現です。

帯は人気の女形(歌舞伎で男性が女性を演じる)役者、初代上村吉弥かみきちやが考案した「吉弥結び」という一方を輪にして結び、他方をそのまま垂らす片結びになっています。これだけファッションナブルに贅を尽くしたこの女性には、具体的なモデルがいたのでしょうか。菱川師宣ひしかわのぶは安房国(現在の千葉県)で、身に着ける物に刺繍や金や銀の箔を摺り合わせ模様を表す縫箔師の子として生まれ、江戸に出て絵師となりました。江戸の庶民に人気を博し、しばしば「浮世絵

の祖」といわれる絵師です。この絵は版画ではなく、師宣の肉筆(絹の画面に直に描いた)の浮世絵で、昭和23年(1948)の「切手趣味週間」シリーズで切手のデザインにもとりあげられて、高い知名度を誇るようになりました。本作品は当館の素晴らしい作品の数々から、研究員が選び抜いたいち押し作品を「未来の国宝」と銘打ち、年間を通じてご紹介する特集「未来の国宝—東京国立博物館 書画の逸品—」(↓2・3ページ)の第一弾です。(松嶋雅人)



見返り美人図 菱川師宣筆 江戸時代・17世紀  
振り返った視線の先に、どんな光景が広がっているのでしょうか